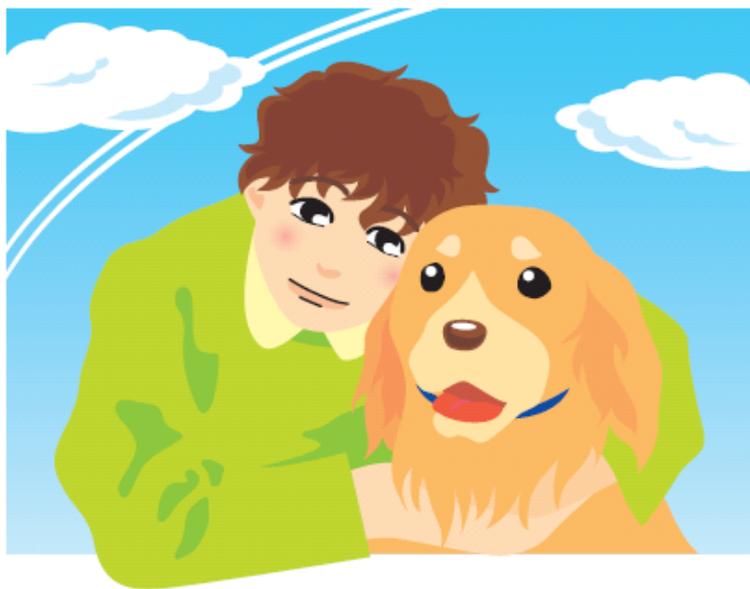


東京都台東区における 多職種連携に向けた取組

～ 命のバトンプロジェクトから見えてきたもの ～



東京都 台東区台東保健所 生活衛生課
愛護動物管理係長 高松 純子

東京都台東区



谷中

千束

上野

浅草

秋葉原

浅草橋

東京都台東区の地域特性

- 東京23区のほぼ中央に位置し、面積は23区で最小
- 上野や浅草などの観光地(繁華街)を有し、年間5,500万人以上(平成30年)*の観光客が訪れる国内有数の観光都市
- 面積10km²の中に約20万人が暮らす国内5位の人口密度で区の約70%が商業地域(令和2年国勢調査結果)
- 東京23区の中でも高齢化率が高い

(※令和2年は、感染症の影響で区の基礎調査なし)

そのため...

- 商店街では、長年ネズミ対策として、猫の放し飼いや餌やりが慣習化⇒飼い主のいない猫(※以下、野良猫)が増加
- 下町の気風があり、昔から野良猫に寛容
- 特に谷中は猫の町で有名で、観光客に人気
- 高齢飼い主の死亡や長期入院など、健康上の理由から飼い犬・飼い猫の飼育困難事例が発生



～ 犬猫の殺処分数削減のための取組 ～ 台東区「命のバトンプロジェクト」

飼い主の飼養責任を徹底するとともに、
野良猫の繁殖制限や、犬の保護譲渡を推進していく



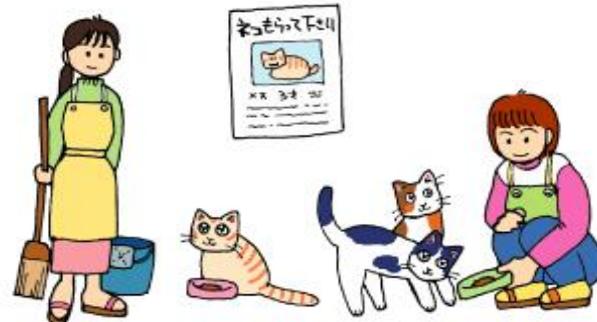
- ① 保護犬の譲渡推進（つなぐ命…東京都、都獣医師会と連携）
 - ・保護犬の新たな飼い主に対し、登録手数料、狂犬病予防注射接種料、注射済票交付手数料、しつけ教室参加費用を免除
- ② 地域猫活動の支援（見守る命…住民、ボランティア、町会と連携）
 - ・飼い主のいない猫（野良猫）の不妊去勢手術費を助成
 - ・地域猫ボランティアや住民、町会・商店街等の地域猫活動への取組を支援



環境省モデル事業



人と動物が幸せに暮らす
社会の実現プロジェクト



台東区における地域猫活動支援

◆◆◆ 16年間の取組の効果検証 ◆◆◆

地域猫活動の成果



地域猫ボランティア数

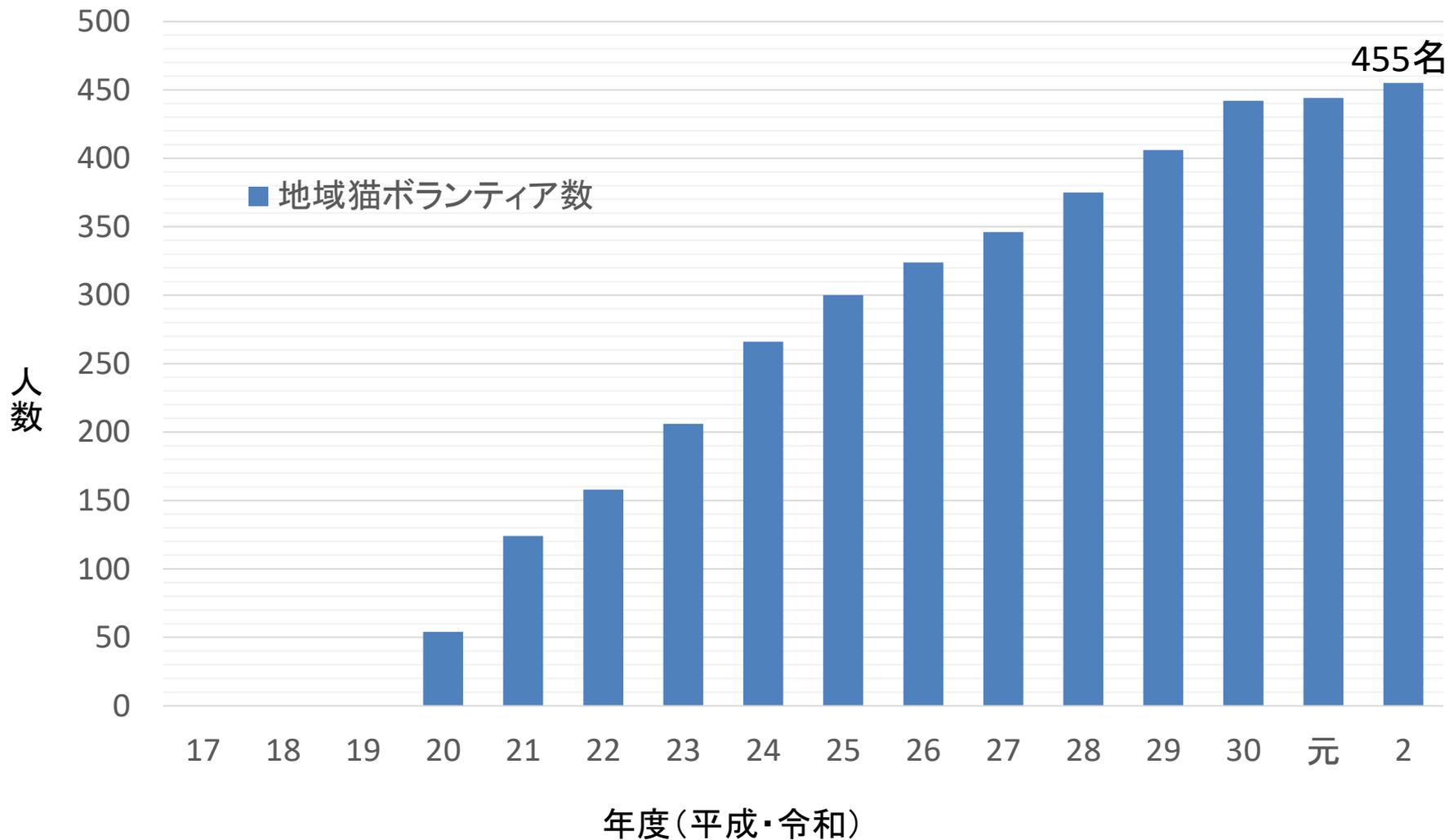
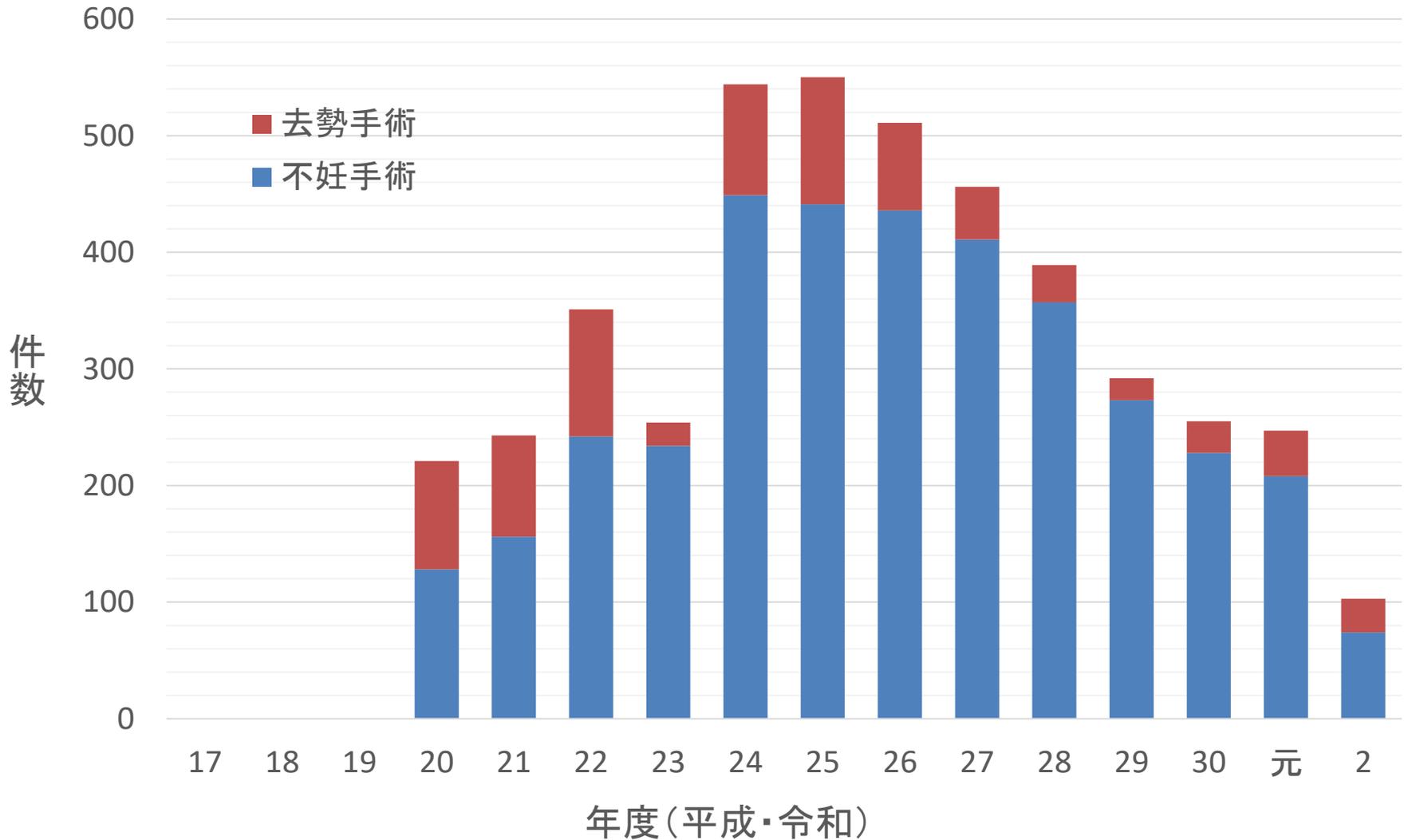


図2 飼い主のいない猫の手術費助成件数



累計手術頭数 4,416頭

効果検証

《指標》

① 猫の苦情相談件数

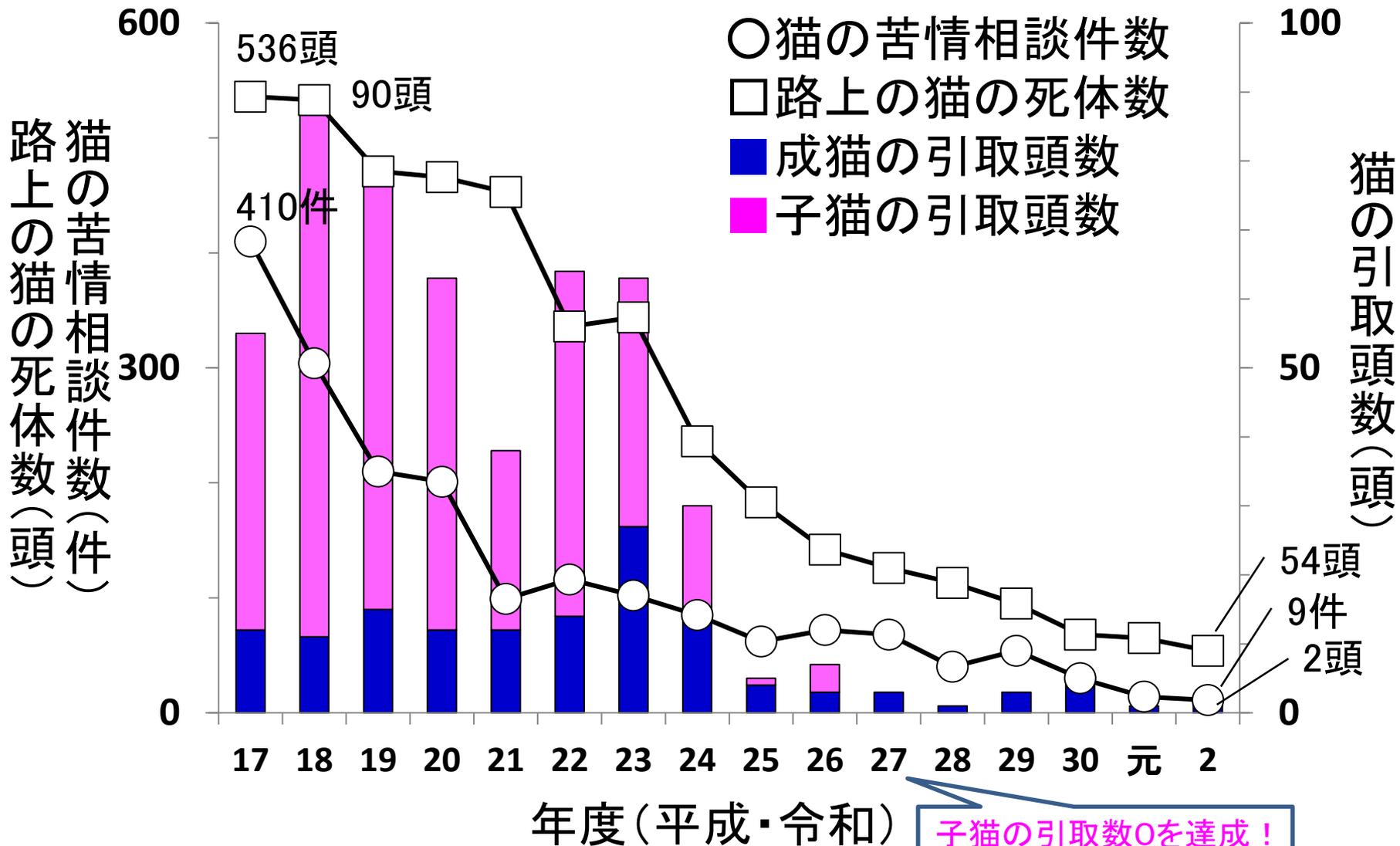
猫に関する区民からの苦情相談件数

② 路上の猫の死体数(ロードキル数)

清掃事務所における死体の回収頭数

③ 猫の引取頭数

台東区内から東京都動物愛護相談センターに
引き取られた頭数

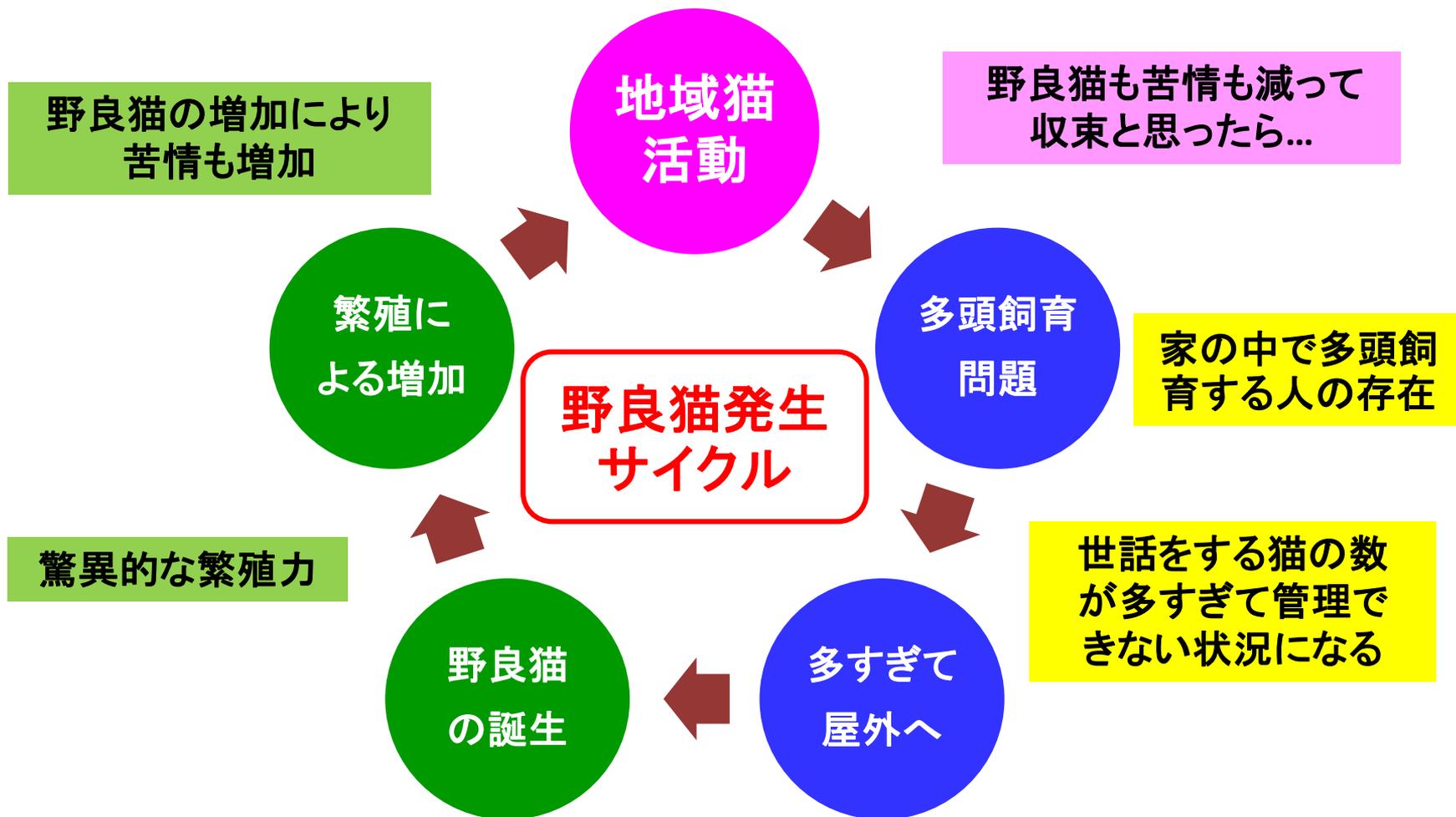


(資料提供 路上の猫の死体数: 台東清掃事務所

猫の引取頭数: 東京都動物愛護相談センター事業概要)

地域猫活動の効果(三指標の推移)

地域猫活動収束後に 見えてきた「多頭飼育問題」

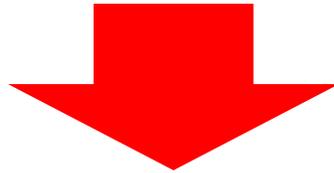


野良猫問題の根源である多頭飼育対策が重要！

地域猫活動収束後に 見えてきた「多頭飼育問題」

地域猫活動⇒多頭飼育の早期発見に繋がる

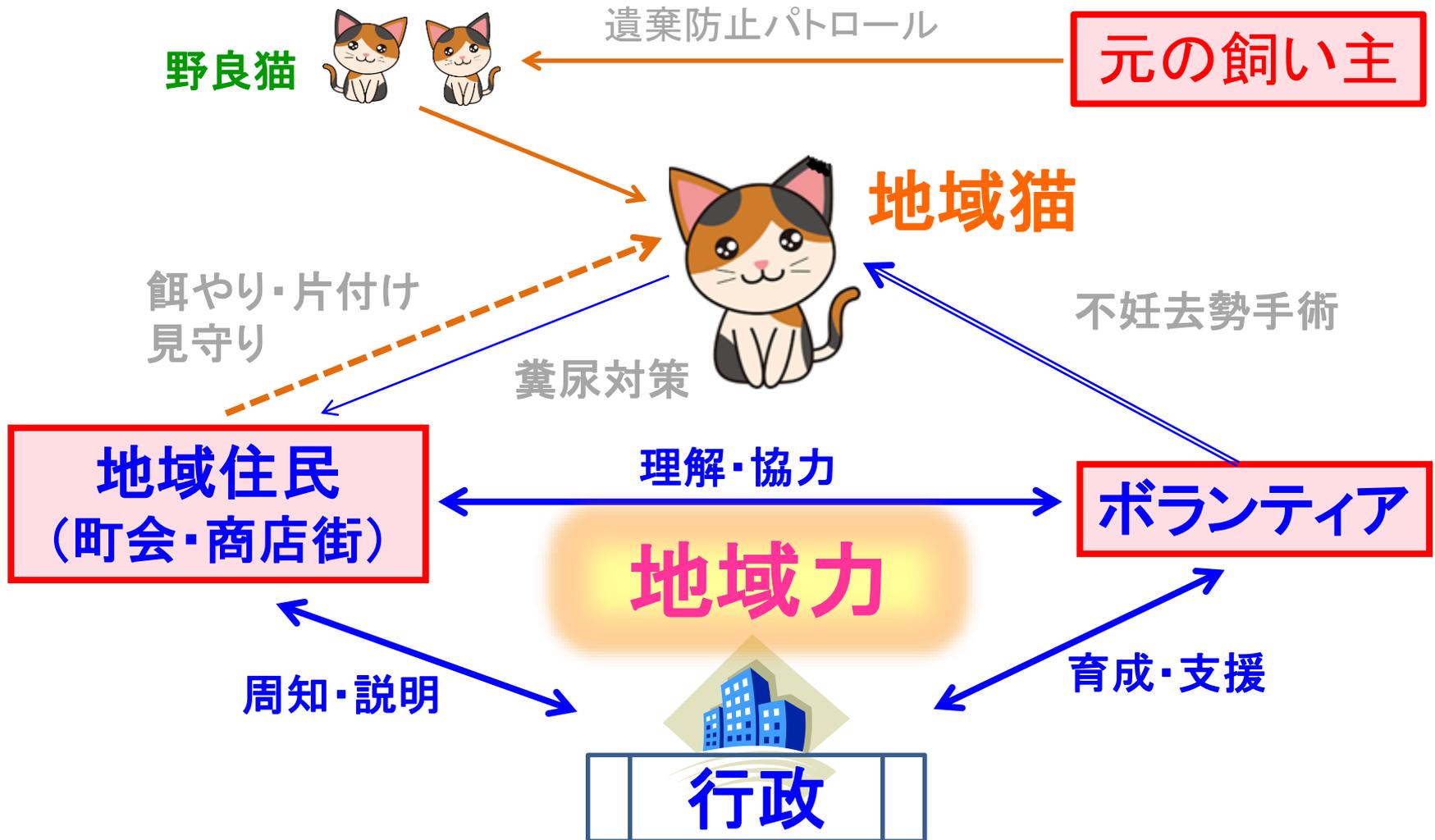
- ・各ボランティアの管理地域の手術が完了
⇒ 時間的、経済的に余裕ができる
- ・自分の管理地域への未手術猫の流入防止
⇒ 隣接の未実施地域を調査し、活動が拡大



町会や地域猫ボランティアが

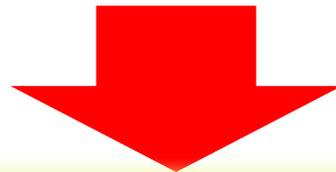
- ◎ 家の中で増やしている多頭飼育者を発見
- ◎ 保健所だけでは解決困難事例を地域力が解決

地域力で地域課題を解決



行政にとって地域力とは...

地域住民が主体となり、
野良猫問題などの地域課題を解決に導く力
(行政は後方支援)



住民自治の考えに基づいた
理想的な地域課題の解決手法
～ 他の施策分野にも応用が可能 ～

多頭飼育問題のタイプ

- タイプ1

孤独の寂しさから自家繁殖させてしまう

- タイプ2

「かわいそう」の感情から保護し続けてしまう

- タイプ3

世話する人がいなくなり、動物だけが残される

- タイプ4

適正に管理できない繁殖業者や動物愛護団体

台東区ペットの飼育状況調査

※ 環境省 多頭飼育対策ガイドライン40頁参照

東京都譲渡対象団体、動物愛護推進員、
動物病院、地域猫ボランティア

介護予防・地域支援課
(地域包括支援センター)

社会福祉士、介護支援専門員、保健師、精神保健福祉士など

社会福祉協議会

社会福祉士、介護支援専門員、
地域福祉コーディネーター など

多頭飼育者

福祉課
(民生委員・児童委員)

介護保険課
(居宅介護支援事業所 等)

介護支援専門員 など

集計結果精査中(現在は多頭飼育崩壊事例なし)

台東区の多頭飼育問題

- タイプ1

孤独の寂しさから自家繁殖させてしまう

- タイプ2

可哀想の感情から保護し続けてしまう

- タイプ3

世話する人がいなくなり、動物だけが残される

- タイプ4

適正に管理できない繁殖業者や動物愛護団体

台東区が多頭飼育対策

◎初期段階での探知・発見と早期対応

①(主に高齢)飼い主への普及啓発

②福祉関係者と③動物関係者との連携

➤ ①②③向けパンフレット(3種類)作成

➤ 多職種連携による事例検討会

◎台東区「命のバトンプロジェクト」のさらなる展開

野良猫(飼い猫)対策⇒地域猫活動の支援

飼い犬・飼い猫対策⇒保護譲渡活動の支援

◎多頭飼育対策講演会の開催

オンデマンド配信でいつでも誰でも視聴可能

台東区「多頭飼育対策講演会」

- 配信開始日時 令和4年3月18日(金)
- 視聴方法 YouTube台東区公式チャンネルで視聴
- 講演内容

「多頭飼育の背景にあるもの

～社会福祉の立場からみた多頭飼育者の特徴について～」

佐藤 尚治 氏

(社会福祉法人 長野県社会福祉協議会主任)

「地域猫活動収束後にみえてきた多頭飼育問題と予防対策」

黒澤 泰 氏

(公益財団法人 神奈川県動物愛護協会常務理事)